

■松本良順(順) 医者。将軍家茂の最後の脈をとり、維新直後に陸軍軍医制度を確立、引退後、大磯に日本初の海水浴場。

まつもとしょうじゅん

鼠小僧磔・・・1832＝江戸麻布で、蘭方医佐藤泰然の次男に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝5歳：

適塾ホヱン・1838＝6歳：父泰然より種痘を受ける。

天保改革始・1841＝9歳：

順天堂始・・・1843＝11歳：父泰然が佐倉藩主堀田正睦に招かれて移住し、順天堂を設立。順は薬研堀の義兄林洞海邸に移る。

阿部正弘首座1845＝13歳：

・・・1848＝16歳：佐倉の父泰然のもとに行き、助手として医術を修業、

北斎没・・・1849＝17歳：医学館試験に合格し、

国定忠治磔・1850＝18歳：幕府の奥医師松本良甫の養子となる。

坪井信道、竹内玄同らから蘭学を修め、

ペリー来航・1853＝21歳：

安政大地震・1855＝23歳：幕府に出仕、

松下村塾・・・1856＝24歳：会津藩から派遣された南部精一が順天堂に入門し、弟弟子となる。

蕃書調所・・・1857＝25歳：幕命で長崎伝習所に行き、来日したオランダ軍医ポンペの助手となり、

安政の大獄・1859＝27歳：長崎で人体を解剖するなど、日本初の系統的な近代的医学教育の実施に協力する一方、写真術に取組む上野彦馬を支援すべくそのモデルとなって撮影される。

桜田門外変・1860＝28歳：

清帝国始・・・1661＝29歳：日本最初の洋式病院である長崎養生所を開設にも尽力。

生麦事件・・・1862＝30歳：上野彦馬が日本初の写真館を開き、ポンペがオランダに帰国したところで、

8月18日政変1863＝31歳：江戸に呼び戻され、緒方洪庵の死のあとをうけて医学所頭取となる(医学所ははじめ西洋医学所と称したが、

緒方洪庵頭取のとき医学所と改称)。ポンペに倣って、医学所の改革を推進、

禁門の変・・・1864＝32歳：ストレスで神経衰弱となった将軍後見役一橋慶喜を荒療治を用いて回復させ、新撰組隊長近藤勇と会見して義兄弟の契りを結ぶ。山内豊城との共著「養生法」(西洋の衛生学を紹介)。

薩長同盟・・・1866＝34歳：*将軍家茂の最後の脈をとり、新将軍慶喜の侍医となって在京、新撰組との交流を深める。

大政奉還・・・1867＝35歳：大政奉還で江戸に帰る。

明治維新・・・1868＝36歳：<戊辰戦争>となり、会津藩の戦時病院日新館に行き、弟弟子南部精一と出会うなどして、戦傷病者の治療にあたった後、横浜まで戻ったところで官軍に捕らえられ、幽閉・謹慎となるも、隠然たる力を発揮、

初の日刊新聞1870＝38歳：人材を求める新政府に赦され、早稲田に私立の蘭疇医院を設立した。

廃藩置県・・・1871＝39歳：*山県有朋の勧めで兵部省に出仕して陸軍最初の軍医頭となり、日本の陸軍の医療体系の確立(軍医部)に貢献。この年、良順から順と改名。

学問のすすめ1872＝40歳：父泰然が死去。

明治6年政変1873＝41歳：初代の陸軍軍医総監となった。

初の民間工場1875＝43歳：馬医監を兼務し、陸軍本病院長兼馬病院長となる。同志と東京医学会社(学会)を設立。

西南戦争・・・1877＝45歳：

琉球処分・・・1879＝47歳：中央衛生会議員、陸軍軍医本部御用掛。長男が病死。

明治14年政変1881＝49歳：

新体詩抄・・・1882＝50歳：陸軍軍医本部長に任じられ、ふたたび軍医総監となる。

この間、牛乳の飲用や海水浴の奨励し、

内閣発足・・・1885＝53歳：*本職を免じられると、神奈川県大磯に海水浴場を開いて、その効能を喧伝、

帝国大学始・1886＝54歳：

国民之友始・1887＝55歳：早くも、大磯に鉄道を通じ、上流階級の別荘地となって行く。

帝国憲法発布1889＝57歳：

帝国議会始・1890＝58歳：貴族院議員、

大本教・・・1892＝60歳：大磯に引退。

郡司千島探検1893＝61歳：妻が死去し、次男が溺死。

日清戦争始・1894＝62歳：

日清戦争終・1895＝63歳：

日露戦争始・1904＝72歳：

日露戦争終・1905＝73歳：男爵、

満鉄発足・・・1906＝74歳：「蘭疇自伝」を発表して、

韓国反日暴動1907＝75歳：没した。